

# ゾーベック™ エニベル™ 顆粒水和剤

## 園芸用殺菌剤

豊かな実りにつながる新しい効き目。  
2種類の有効成分で疫病・べと病と闘う！

- 2種の有効成分のはたらきで、従来の薬剤に対して感受性の低下した疫病菌・べと病菌にも有効
- 浸透移行性があるため新葉も守る
- 耐雨性と残効性に優れる
- 病原菌生活環の全ステージで優れた効果
- トマトときゅうりでは収穫前日まで使用可能

台湾へ輸出するぶどうに  
使用できるようになりました！  
台湾「ぶどう」における有効成分オキサチア  
ピプロリン(商標名ゾーベック)の残留農薬  
基準値:0.2 ppm(同マンゼブ:5 ppm)



さあ、  
新しい次元へ。

園芸用殺菌剤

疫病・べと病に対するゆとりの防除効果

疫病菌・べと病菌に対する基礎活性が高く、また病原菌生活環における様々なステージに作用します。そのため、病気の発生しやすい条件の中でも安定して優れた防除効果を発揮します。また、感染前の予防的な散布が基本ですが、悪天候(荒天、連続的な降雨など)や他の管理作業のためやむをえず最適な防除タイミングを逃してしまった場合でも比較的安定した効果が期待できます。

■適用病害と使用方法

2022年5月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサチアピプロリンを含む農薬の総使用回数	マンゼブを含む農薬の総使用回数
トマト	疫病	750倍	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
きゅうり	べと病							3回以内
ぶどう	晩腐病		200~700 ℓ/10a	収穫45日前まで				2回以内
								もも

■希釈早見表

希釈倍数	一定量の希釈液を作るのに必要な薬量(g)						
	10ℓ	50ℓ	100ℓ	150ℓ	200ℓ	500ℓ	1000ℓ
750倍	13.33	66.66	133.33	200	266.66	666.66	1,333.3

■薬剤のはたらき

**オキサチアピプロリン**

葉面浸透性に優れ、葉の表面に付着した有効成分の一部が葉裏まで到着し、葉全体に保護作用を発揮。

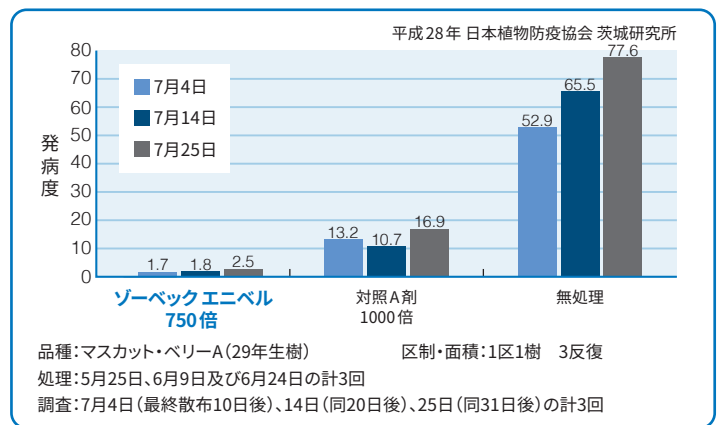
+

**マンゼブ**

植物体上に付着して主として孢子発芽を強く抑制する事により、病原菌の侵入を阻害し殺菌効果を発揮。

有効成分(オキサチアピプロリン・マンゼブ)2成分のはたらきで、他の薬剤に対する感受性の低下した疫病菌・べと病菌にも優れた効果を示します。

■ぶどう／べと病に対する効果



■効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。●石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけてください。●ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。●散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。●使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。●ぶどうで使用する場合、果実肥大中期(あずき大)以降の散布においては、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意してください。●散布にあたっては、風向きなどに注意し、薬液が周辺の作物に飛散してかからないように十分注意してください。●過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。●耐性菌管理の観点から、育苗期間中は本剤を使用しないでください。●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。●本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。●散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。●かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。●夏季高温時の使用をさけてください。●蜜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。●使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。●高温下及び湿気を吸うと分解して効力が低下するので、直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

■耐性菌管理方針

- 殺菌剤分類 **49, M3**
- ラベル記載の薬量(希釈倍数)を遵守し、推奨する散布間隔(7~10日)を守って使用してください。
  - 栽培期間の前半に使用してください。防除の序盤に使用することでゾーベック エニベルによる作物保護効果を高めつつ、病原菌が薬剤に暴露される機会を制限することができます。
  - 異なる作用機構を持つ、疫病・べと病に有効な殺菌剤と体系で使用してください。
  - 病徴が発現する前に予防的に使用してください。

病原菌に対して特異的で単一の作用点を持つ殺菌剤については特に、突然変異等の要因により感受性の低下した菌や耐性菌が発生し、防除効果の低下につながる可能性があります。殺菌剤耐性菌管理の戦略は、病原菌のみならず殺菌剤側としてのリスクも考慮する必要があります。耐性菌発達の危険度が高いと分類される病原菌に起因する病害に対し、耐性菌発達危険度の高いと考えられる薬剤を用いる際には、特に注意が必要です。

コルテバはFRACメンバーでその活動を全面的に支持しており、前記のゾーベック エニベル耐性菌管理方針は上述した考え方に則って作成されています。

FRACに関する参照サイト  
 (1) Fungicide Resistance Action Committee (FRAC) ウェブサイト(英語)  
<http://www.frac.info/home>  
 (2) Japan FRAC 殺菌剤耐性菌対策委員会 ウェブサイト(日本語)  
<http://www.jcpa.or.jp/labof/frac/>

●使用前には、ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。 洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記載しましょう。

製造  
**コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社**  
 〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー  
<https://www.corteva.jp/>



取扱 本資料は2022年5月現在の知見に基づき、作成されています。